

うるくの コネタ

ローカルなコネタ、
歴史ネタなどをご紹介

戦前の姿が残る希少なムラガー(その2)

「シマダガー」

〔那覇市指定史跡〕

字小禄 5 丁目、県道 7 号線と並行する裏道に、戦前のムラガー（共同井戸）の形を残す『シマダガー』があります。かつて字小禄には18箇所のカー（井泉）がありましたが、その大部分は沖縄戦により破壊されており、シマダガーは戦前のムラガー（共同井戸）の形を残している数少ないカー（井泉）です。以前 vol.18 でご紹介した『アモールシガー』と共に那覇市指定史跡となっている貴重な文化財のひとつです。（1999 年 11 月指定文化財指定）

農作業の帰りに手足や農具を洗う場所だった

『シマダガー』は字小禄の集落の南東側、小字名「島田原（シマダバル）」にあることからその名がついています。かつてこの周辺はサトウキビ、イモ、野菜などをつくる畑が広がっており、『シマダガー』は主に農業用水として、そして農作業の帰りに手足や農具を洗ったりする場所として使われていたようです。昔の農村生活を知る上でも貴重な史跡です。大きな石積みや敷石が残り、かつてのムラガーの様子を今も感じることができます。



説明板に描かれているかつての風景

【シマダガー】
那覇市小禄5丁目13-23

※参考：那覇市観光資源データベース <https://www.naha-contentsdb.jp/spot/659>

お知らせ!

ポッドキャスト

はじめました!

小禄地域の様々な情報をフリーペーパーやWEB、YouTube、Instagramなどで発信してきた「うるくローカルプレス」がポッドキャスト番組をはじめました!ナビゲーターは小禄生まれ小禄育ち小禄在住の新崎恭平さん。地域の様々な人のお話を聞いたり歴史や文化の探訪など小禄の昔と今を伝えながら、小禄地域の未来と一緒に考えていければと思います。Spotify、Youtubeでお楽しみください!

番組で話したい方、ぜひご連絡ください!



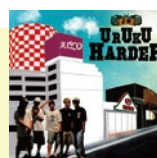
2025年6月27日より
配信スタート!
毎月第4金曜17:00配信(予定)

Spotify YouTube



オープニングBGMにも注目!

オープニングBGMは小禄を拠点に活動するヒップホップアーティスト・J.M小禄第一小隊の『ピンフ』。素敵なメロディで番組スタートします♪



【オープニングBGM】『ピンフ』J.M小禄第一小隊 0大輝.YONE.大.Qna.KOURA



ナビゲーター
新崎さん

編集後記

「聞こえる機織の音」

戦後80年が経ち、小禄の染織文化として復活継承に向けて歩んでいる小禄クンジー。戦火を逃れ奇跡的に残ったクンジーは持ち主や関わる人の様々な想いに守られ残ってきました。その想いと「クンジーをもう一度」という地域の方々の想いが経糸と緯糸になり、今の小禄クンジーになっているような気がします。研究会にお邪魔すると、建物から

「トントン、トントン」と機織の心地よい音が聞こえてきます。そして楽しそうにおしゃべりしている声。昔はあちこちでこんな機織の音が聞こえていたのかと思うとなんだかほっこりしますし、自然と「三村節」を口ずさみたくってきます。地域の大切な染織文化・小禄クンジーをこれからも守って繋げていきましょう。



うるくローカルプレスの「小禄(うるく)」は、【小禄、字小禄、大嶺、鏡水、安次嶺、當間、金城、赤嶺、高良、宮城、具志、宇栄原、田原あたり】としています。

URUKU LOCAL PRESS
うるくローカルプレス

WEBサイト

誌面では伝えきれない情報が満載!
<https://uruku.daikyo-k.net>



各SNSからの
メッセージもOK!



Facebook



twitter



instagram



youtube



Spotify

うるくの情報発信局
『うるくローカルプレス』

編集部:那覇市宇栄原925番地 若葉荘1-3号室
運営:大鏡建設株式会社(那覇市宇小禄912-1)

お問合せ&窓口

✉ uruku@daikyo-k.net

人とまちの、
未来をつくる。

大鏡建設
DAIKYO CONSTRUCTION

URUKU LOCAL PRESS

うるくローカルプレス

うるくのローカルな情報をお届け!

2025年7月
vol.20

無料 TAKE FREE

沖縄戦後80年
～再び芽吹いている地域の染織文化～

うるく
小禄クンジー

沖縄戦後80年～再び芽吹いている地域の染織文化～

うるく 小禄クンジー

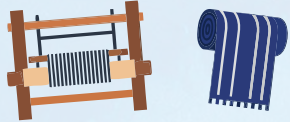
400年以上前の琉球王国時代にはじまり戦前まで小禄地域で盛んに織られていた『小禄クンジー』。沖縄戦などで一旦は消滅の危機に陥り継承が絶たれていましたが、2007年に『小禄クンジー研究会』が発足し現在も活動を続けています。今年は沖縄戦後80年。戦争を機に無くなってしまったものも多い中、時を経て地域の染織文化として再び芽吹いている『小禄クンジー』についてご紹介します。

『小禄クンジー』とは

『小禄クンジー』とは琉球藍染の緋や縞などの織物で、濃紺色の地色から方言読みで『小禄紺地』と呼び親しまれ、昭和初期まで小禄地域(旧小禄村)でたくさん織られた織物です。

はじまりは400年以上前

そのはじまりは400年以上前の琉球王国時代。小禄クンジーに使われる木綿糸の木綿栽培が沖縄で最初に行われた場所は垣花で、1611年沖縄の産業の恩人といわれる機間真常が薩摩(鹿児島)から持ち帰った木綿の種子を領地内(儀間・湖城(クグシク)→後の垣花)で栽培したとされています。1612年、薩摩出身の織女の手千代・実千代に国王に献ずる木綿の大帯を織らせたこと、沖縄で初めての手紡糸からの木綿織を始めたこととされています。真常は領地内に伝習所を設け生産をはじめ、小禄クンジーの元である”小禄布”として近隣に広がり、これらが後年の琉球絣の起源となり、本土に渡って薩摩絣となったともいわれています。



産業化で地域の主要産物に

自家用から産業化へ

小禄クンジーのような木綿織は琉球王国時代は士族の冬物であり庶民の衣服は芭蕉布が主流でしたが、明治に入ると庶民の日常着として自家用に織られるようになります。1900年(明治33)を境に沖縄の織物は自家用から商品としての織物へと変化してといわれていますが、小禄クンジーも色彩の美しさや品質が全国的な評価を得て量産されるようになっていきます。1903年(明治36)小禄間切女子実業補習学校が設立(小禄尋常小学校内。現在の赤嶺駅付近)。後に「當間の織物学校」とも呼ばれ、沖縄県内2番めの女子向け実業学校として絣織物技術の習得や機織の養成などが行われました。1918年(大正7)の廃校までに400名近い卒業生を出し、織物業に従事、貢献したと思われます。地域の主要な産業として織物の高い品質と技術を保持・継承していくために地域で取り組んでいたのでしょう。



小禄間切女子実業補習学校
『當間の字誌』より

機織りは女性の高い現金収入

宮城誌や具志字誌などには、「機織」の職種は女性にとって高い現金収入であり親も畑仕事をさせるより機織をすすめた、とあります。「朝から晩まで織っていたよ」などの証言もあり、ほとんどの家庭で早朝から晩遅くまで機織りの音が聞こえていたそうです。一家に一台は織り機があったのでしょうか、小禄地域の多くの女性が機織に携わっていた様子がうかがえます。



地機織りの女性(『大嶺の今昔』より)

繰り返し染め重ねることで 生まれる藍の美しさ

沖縄本島中・北部地方で栽培されていた沖縄特産の琉球藍で、繰り返し黒に近くなるまで染め重ねることで生まれる深みのある色合いが一番の魅力です。濃く染め重ねることで日光に当たっても色褪せしにくく、沖縄県史によると「色彩の美しいこと、容易に変色しないこと」と品質を賞賛され、小禄クンジーは多く県外へ移出されていました。

緻密で多彩な図柄

糸を染める際に糸束を別の糸で括って染まらない部分をつくり、経糸と緯糸をあらかじめ計算された配置で織り模様を編み出す「絣」と、藍染の濃淡異なる経糸と緯糸を配置して織ることで模様を編み出す「縞」を基本に、緻密で多彩な図柄が特徴です。



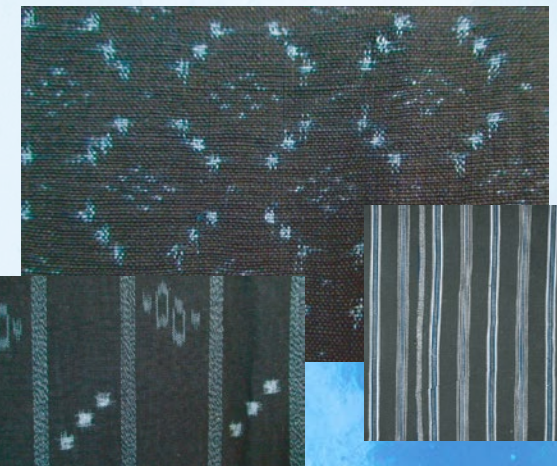
琉球藍

染色作業

天日干し



濃い藍で3分間染め (左)1回 → 20回(右)回数を重ねることで濃く深い藍色になります



衰退と戦後の環境変化

昭和初期に次第に衰退

昭和に入り、小禄クンジーは次第に生産が落ち込んでいきました。要因としては1931年(昭和6)の満州事変勃発以降、木綿糸の入手が厳しくなったことや、小禄地域における生産拠点の一つとなっていた宮城の「安次嶺機織共同作業所」が1937年(昭和12)頃に廃業したことなどが考えられます。そして時代は沖縄戦へと移っていきました。

戦後の環境変化で消滅の危機に

沖縄戦後は小禄クンジー(織物業)を取り巻く環境が大きく変わりました。戦争によって紺地を染める人がいなくなってしまったこと、紺地自体もその多くが焼失してしまい染と織を分業化していた構造上、一方が無くなると存続が難しく、産業としての小禄クンジーは消滅の危機に陥ったのです。また小禄地域は米軍の土地接収によってその多くが米軍基地となり、軍作業に従事する人が大半となりました。機織をしていた女性は軍作業に従事する男性の代わりに農作業に出るなど地域の生活環境が大きく変化し、織物業や染屋が復興することはありませんでした。しかし、戦火を逃れ家庭に残っていた着物などもあり、これらが後年の小禄クンジー復活の糸口へと繋がっていきます。

うるく とっくしく かちぬはな みむら
♪ 小禄・豊見城、垣花 三村
三村ぬあんぐわたあが
すり ぬめう
揃と〜てい布織い話し
綾まみくくなよ もとかんじゅんど〜♪

織られなくなった小禄クンジーをもう一度

戦後、織物業が復興することなく時は流れ、小禄クンジーは一部の人が知り得るものとして残っていましたが、織技術を保持した方々を中心に1985年(昭和60)に「クンジーをもう一度」の声が上がり、そこから22年の年月を経て少しずつ息を吹き返していきます。

織技術保持者による教示と 後継者育成への一歩

1985年(昭和60)小禄クンジーの消滅を危惧し、織技術を保持した方々(指導者3名)がJA小禄(現JAおきなわ高良支店)で教示をはじめました。その翌年1986年(昭和61)には小禄南公民館主催による指導者3名を中心とした座談会が開催され復活への一歩を踏み出します。しかし、肝心の藍染(紺地染め)の技術指導ができる人が見つからなかったこともあり、復元への道が絶たれた状態となりました。



「小禄クンジー研究会」

小禄クンジー研究会発足まで、染め手の消失が最大の課題でしたが、その育成を図るため藍建てから染めまでの藍染講習を実施するなどして現在は研究会で染から織まで一貫して行っています。糸染から織、そして作品が出来上がるまでは複雑な工程と長い期間を要するため、そのすべてを習得するのは大変なことです。が、織経験豊富な方や沖縄県認定の伝統工芸士の方もおられ、そのメンバーがサポートしながら会員同士で技術を共有できているので研究会が継続できているそうです。2021年(令和3)から現在の字小禄自治会館敷地内建物に作業所を移設しましたが、藍が好む環境で藍染に適しており、場所を提供いただいた地域に感謝しながら活動しているそうです。「これまで地域の方に助けてもらって先輩方のおかげでここまで楽しくやってこれました」と研究会の皆さん。研究会発足から18年、そして「クンジーをもう一度」の声から40年。小禄クンジーは小禄の誇れる染織文化としての復活継承に向けて歩んでいます。

戦火を逃れ残っていた貴重な小禄クンジーの調査

沖縄戦でその多くが焼失してしまった小禄クンジーですが、戦火を逃れ奇跡的に家庭に残っていたものもあり、寄贈またはお預かりして調査し記録に残し研究に役立てています。デザインや用途、図案、経糸緯糸の色合いサイズなど仕様に関しての調査のほか、持ち主の方には様々な聞き取りをして記録しています。戦前に織られ着物から洋装にリメイクされたものも多くどんな経緯で現在の形になったのか、なども記録。祖母が嫁ぐ母に持たせた着物をその娘が洋装に仕立て直した、戦時中は豪の中に隠していた、など大切に残され受け継がれてきたものばかりで貴重で興味深い資料となっています。



戦前のクンジーの調査は貴重な資料となっている

沖展への挑戦

2025年開催の第76回沖展の織物部門にて研究会メンバーの屋富祖さんの作品が入選。研究会として以前から沖展への挑戦が続けてきており、入選などによりメディアで取り上げてもらうことで小禄クンジーの認知を広げていく機会にしています。また、こうした機会は研究会会員のモチベーションにも繋がっています。



第76回沖展織物部門入賞 2025年(令和7)



右:第76回沖展織物部門入賞の
着物/発注者の小禄老人クラブ
「親和会」会長 東江さん
左:小禄クンジーをあしらった
かりゆしウェア/字小禄自治会
会長 高良さん

小禄地域で クンジーが 見える場所



小禄支所(建物外観の
紺色は小禄クンジーを
イメージしたもの)

小禄クンジー研究会のみねさん



展示会等による普及啓発活動

これまでに様々な展示会等で小禄クンジーについて紹介し、その普及啓発のための活動を行ってきました。また自治会館での地域まつりなどでも研究会が製作した小禄クンジーの作品を販売したりしています。

上写真:コザ信用金庫小禄支
店で開催された小禄クンジー
研究会展示会2025年(令和7)



宇栄原自治会敬老会で開催
された小禄クンジーファッション
ショー 2012年(平成24)

小禄クンジー研究会10周年
記念展 JA小禄3Fホールにて
2017年(平成29)

Let's
Try!

クンジー織り
体験できます!

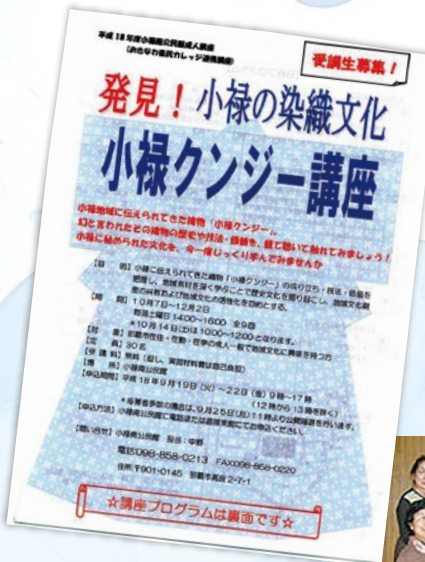
小禄クンジー研究所内
で織り体験ができます。
素敵なコースターを織
ることができますよ!

お家に眠っている
クンジーありませんか?!

ご実家や親戚の家などに眠っている
小禄クンジーの着物等がありましたら
貸してください!調査させていただき
ご返却いたします。擦り切れている
ものや、継ぎはぎだらけのものほど
大歓迎です!

小禄クンジー
研究会

作業所:那覇市小禄5-4-6 字小禄自治会館内
活動日時:毎週水曜 14:00-17:00
※お問い合わせは字小禄自治会館までお願いします
098-857-8112



2006年開催の
小禄南公民館講座



講座に参加した受講生により
『小禄クンジー研究会』が発足

高まり、講座に参加した受講生を中心に『小禄クンジー研究会』が発足しました。1985年(昭和60)からの「小禄クンジーをもう一度」の声から実に22年の歳月を経ての実現となりました。

小禄南公民館講座に参加した受講生により 2007年『小禄クンジー研究会』が発足

2006年(平成18)小禄南公民館講座「発見! 小禄の染織文化 小禄クンジー講座」が開催(全9回)され、50名を超す受講申込みがありました。講座開催にあたり、関係者への聞き取り調査や文献調査、小禄クンジー分解設計調査なども行われました。講座を取り上げた新聞報道により復元への機運が